

一

次の文章を読んで、後の一から十一までの各問いに答えなさい。
(ただし、字数指定のある問いは全て句読点・記号も一字とする。)

著作権上の都合により未掲載

著作権上の都合により未掲載

〔注〕

*コードⅡ規定。 *西部フロンティアⅡアメリカにおいて、おくれて開拓された西部地域。

*ランダムネスⅡ手当たりしだい。 *セオリーⅡ理論。 *運否天賦Ⅱ運を天に任せること。

*賭博Ⅱ金銭や品物を掛けて勝負を決める遊戯。 *忖意Ⅱ自分勝手な考え。

*セレンディピティーⅡ掘り出し物を見つける才能。 *ノイズⅡ雑音。 *素乱Ⅱ乱れ。

問一 ―線1「意外にも『よろめかないと死ぬネズミ』の話が、世の中には多くあらわれている」とありますが、これはどういうことを示していますか。答えとなる部分を本文中から四十五字以内でさがし、最初の五字をぬき出しなさい。

問二 ―線2「文明化された社会では、論理的にも効率的にも忌避されてきたデタラメだが」とありますが、「文明化された社会」はなぜ「デタラメ」を「忌避」するのですか。「くから」につながる形の一続きの部分を本文中から二十五字以内でさがし、最初の五字をぬき出しなさい。

問三 ―線3「偶然の力に任せるしかない」とありますが、この「偶然の力」は私たちにどのようなものをもたらしてくれますか。答えとなる部分を本文中からさがし、十字でぬき出しなさい。

問四 ―線4「伝統を国際化する過程で伝統が破壊される」とありますが、どのような意味ですか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 伝統が国際化するに当たっては、表面的な部分だけが都合のいいように解釈されるということ。

イ 伝統はその国内にあつてこそ伝統精神が生きているので、国外へは形を変えて出すべきだということ。

ウ 伝統が世界に流出してしまった現在では、もはやその国古来の姿にはもどせないということ。

エ 伝統が世界に普及していくうちに、元来持っていた性質が次第に変化してしまうということ。

オ 伝統は世界に広まったときから自分たちとは無縁なところで変化し、その流れは止めようがないということ。

問五 本文中の「――」でくくられている部分「たしかにジャンケンにはく違った反応を示す。」に述べられている、ジャンケンの性質から、人々はジャンケンをどのようなものとしてとらえていると考えられますか。答えとなる部分を本文中から五字以上十字以内でさがし、ぬき出しなさい。

問六 ―線5「偶然と必然を混合してアリは生きてきたのだ」とありますが、これをジャンケンをする人の動きに当てはめた場合、

「偶然」と「必然」はそれぞれ何を指していますか。最も適当なものを次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア ジャンケンにおける勝敗。

イ ジャンケンにおいて何をだすか。

ウ ジャンケンにいたるまでの議論。

エ ジャンケンの勝敗が決した後の行動。

オ ジャンケンで勝敗が決するまでの緊張感。

カ ジャンケンの結果しだいで何をするかをあらかじめ決めること。

問七 空らん「6」に入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 感情的

イ 強制的

ウ 効率的

エ 積極的

オ 感覚的

問八 ―線7「自己滅却の芸術」とありますが、ここから陶芸はどのような芸術であるということが出来ますか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 陶芸は、自分の予想を超越したものができあがったとき、その素晴らしさを評価することができる芸術である。

イ 陶芸は、必ずしも自己の意図したとおりにとはならないことを理解して、機械的に作業しなければならない芸術である。

ウ 陶芸は、常にあるがままを受け入れるという謙虚な姿勢で臨んでこそ、はじめて完成点に到達できる芸術である。

エ 陶芸は、神の力によって成り立つものであり、人は自らの意志を捨て神の命じるままに動くことが要求される芸術である。

オ 陶芸は、作品の美しさを理解するために私利私欲を捨て自然の力を身体に取り込まなければならぬ、厳しい芸術である。

問九 ―線8「対話」とありますが、ここでは「土と熱との」どのような様子をあらわす言葉として用いられていますか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 土と熱とが相談し妥協点を見出そうとしている様子。 イ 土と熱とが互いの主張を押し付けあっている様子。

ウ 土と熱とが陶工の意図を理解しようとしている様子。 エ 土と熱とがともに無私の状態を保とうとしている様子。

オ 土と熱とが一緒にまだ見ぬ完成点を探し求めている様子。

問十 ―線9「日本の多くの作品は完成の癖に傾くが故に、屢々生気を失なっている」とありますが、「生気を失う」とはどのようなことですか。わかりやすく説明しなさい。ただし、解答に際しては「ノイズ」と「機械」の二語を必ず入れること。

問十一 ―線10「数字と計算は一寸のすきも融通も利かない」とありますが、本文の内容をふまえると、「数字と計算」に支配された場合、たとえばどのような社会になることが予想されますか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ある程度の安定した生活は保証されるが、何事も計画された範囲にとどまる社会になる。

イ 何事も初めから結果がわかっており、人々の向上心が奪われてしまう社会になる。

ウ 必ずしも計算された通りの結果にはならず、最終的には混乱した社会になる。

エ 上に立つ者の指示が絶対で、人々はその指示通りに動くことになり、独裁を許す社会になる。

オ 人々が画一化された生活にたえられず、自由を求めるあまり不安定な社会になる。

□ 次の文章を読んで、後の一から十四までの各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いは全て句読点・記号も一字とする。)

著作権上の都合により未掲載

著作権上の都合により未掲載

〔注〕 ＊カバちゃんⅡ「ぼく」の友達の一人。

問一 ―線1「うれしさのあまり、手に持っていたカメノコダワシをぎゅっとつかむ」という行動から読み取れる「ぼく」の気持ちを表す言葉を漢字三字で答えなさい。

問二 ―線2「なにかしら声をかけていく」とありますが、このような「おやじ先生」の気持ちとして最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア いたずら者である二人がすっかりプールそうじをしているかどうかを確認しなくてはいけないという気持ち。
- イ 声をかけて二人の努力を認めなければ飽きっぽい少年たちのやる気を持続させられないという気持ち。
- ウ 二人の長所に気づけなかった自分を反省し、これからはさみしい思いをさせないようにしようという気持ち。
- エ 勉強面では注目されなかった二人が一生懸命にプールそうじをする様子に急激な成長を感じている気持ち。
- オ 暑いにもかかわらず毎日一生懸命に働いている二人の頑張りを認め、温かく見守ってあげたいと思う気持ち。

問三 空らん「3」に入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア おそろしい イ つまらない ウ おとなしい エ なさけない オ いじわるい

問四 —線4「いまに、りっぱな花を咲かせる、がっしりとした木になる」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 成長する イ 柔和になる ウ 大成する エ 安定する オ 素直になる

問五 —線5「足りないところ」とありますが、「ぼく」には何が足りないのですか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 忠誠心 イ 自尊心 ウ 依存心 エ 好奇心 オ 自立心

問六 —線6「そういう」が指している内容として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一人でいることが苦痛なので、友達に嫌われないように周囲に合わせながら生きているような性格。

イ 一人でいることが苦手なので、周りに知っている人がいないと気持ちが落ち込んでしまうような性格。

ウ 一人でいることが得意ではなく、友達にいつでも自分のそばにいたいことを強制してしまうような性格。

エ 一人でいることは本来好きではないが、そのような弱さを見せたくないという負けず嫌いな性格。

オ 一人でいることの無力さを知っており、いつも周囲と力を合わせて行動しようとする性格。

問七 —線7「一匹オオカミ」とありますが、この言葉は、ここでは「栗田」のどのような性格を指していますか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一人きりで過ごすことを苦にしておらず、自分のペースをくずさないで上手にその時間を過ごせるような性格。

イ 近くに寄ってくる人間との距離を上手に置きつつも、一人でいる世界の豊かさを人に伝えようとする社交的な性格。

ウ 年齢としてはまだ子どもであるが、あちこちに一人きりで積極的に出かけることができるような行動的な性格。

エ 周りからの評価を必要なものとして、一人で十分に生きていけるのだという態度を意識的に強く見せている性格。

オ 一人きりでいてもさみしいそぶりを周りに見せないようにしようと、一生懸命に背のびをするような勝気な性格。

問八 —線8「カッコいいよな、オトコっぽくて」とありますが、この時の「おやじ先生」の口調はどのようなものと考えられますか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」には「栗田」に負けない良さがあるのだとなくさめるような優しい口調。

イ 意味もなく「栗田」に対して反発をする幼い「ぼく」を根気よく諭すような重い口調。

ウ 「ぼく」の「栗田」への子供っぽいあこがれを見ぬき、その思いを見下すような軽い口調。

エ 「栗田」を意識している「ぼく」の気持ちをほぐすような冗談めかした口調。

オ 六年生ながら大人っぽい「栗田」の様子に自らの指導の成功を実感して喜んでいる口調。

問九 —線9「はあ、まあ、なんか、そうらしいっすね」とありますが、この表現に見られる「ぼく」の様子として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア あからさまな反論をしないものの、「栗田」と自分を比べる「おやじ先生」に対して怒りを隠せない様子。

イ 親しげな口調で会話をしているが、内心では「栗田」よりも劣ることを思い知りショックを受けている様子。

ウ 一応のあいづちを打ちつつも、「栗田」の存在を特には意識していないという強がりを見せている様子。

エ そつけない態度を取りながらも、「栗田」の大人びた態度にひかれて自分には気づかされ動揺している様子。

オ うなずくものの、「おやじ先生」の言ったことを本当はよく理解しておらずいいかげんに返事を返している様子。

問十 ―線10「食わずぎらい」とはここではどういうことですか。二十字以内で具体的に説明しなさい。

問十一 ―線11「栗田はずいぶん小さな子にも人気があった」とありますが、「ぼく」は「栗田」の小さな子に対する接し方などのようなところが上手であると感じているのですか。具体的に二十五字以内で説明しなさい。

問十二 ―線12「そんな期待も、ちよつとしている」から読み取れる「ぼく」の気持ちとして当てはまらないものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア カバちゃん、きつと自分の知りたいことを調べてくれて「ぼく」の好奇心を満たしてくれるだろうと思う気持ち。

イ プールに顔を出すという約束を破ったカバちゃんだが、近いうちにあやまりに来てくれるだろうと思う気持ち。

ウ かつこよくありたい年代なので、友達が来ることを心待ちにしていると正直に言うことはずかしく思う気持ち。

エ コンビニのごはんよりもおいしいものを持ってきてくれるかもしれないという、ひそかな期待を持っている気持ち。

オ 自分が直接質問するのではなく、友達が情報を持つてくることで疑問が解決することをひそかに願っている気持ち。

問十三 「ぼく」の「栗田」に対する姿勢は全文を通してどのように変化していきましたか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 最初は勝負に負けたことにショックを隠しきれなかったが、次第に「栗田」の度胸に尊敬の念を抱くようになっていく。

イ 最初は非常に意識していたが、次第に「栗田」の少年らしさを目にするようになると親近感を抱くようになっていく。

ウ 最初は「栗田」を否定していたが、冷静に観察するにつれてやはり認めるまでもない存在だと確信するようになっていく。

エ 最初は「栗田」の行動に嫌悪感を覚えていたが、実は自分の勘違いだったと気づき、次第に声をかけるようになっていく。

オ 最初は絶対に負けるものと反発していたが、次第に「栗田」の性格に興味を持ち始め、長所を認めるまでになっている。

問十四 本文の表現上の特色を説明したものとして最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 多くの登場人物の間でたくさんの会話が楽しげに交わされることでリズムミカルな調子を生み出している。

イ いたずら好きな少年たちの夏を生き生きと描くことで、読み手自身の幼い頃の記憶を呼び起こそうとしている。

ウ 「ぼく」自身が語る一人称の文章が多く、「ぼく」の少年らしい心のゆれを丁寧に追いかけて読み取ることができる。

エ 優れた人々から影響を受けて、頑固だった過去の自分を冷静に見つめ始めた「ぼく」の成長を読み取ることができる。

オ 頑張り（がんばり）を周囲になかなか認めてもらえない「ぼく」の辛さを取り上げること少年期特有の悩みをあらわにしている。

三 次のカタカナを正しい漢字に直しなさい。（一画一画でいいにはつきりと書くこと。）

1 弁護人の発言にイギを唱える。

2 新しい企画をセントウする。

3 彼の考えこむ表情にはセキジツの面影がある。